

クローズアップ

NGO・NPO

NGO神戸外国人救援ネット 外国人とともにくらすまちを目指して

Close Up

NGO・NPO

設立の経緯

NGO神戸外国人救援ネットは、阪神・淡路大震災によって生まれたネットワークです。震災時に情報が伝えられなかったり、各種手続きができなかったり、同じように被災したのに、言葉や在留資格などの問題で住民としての権利が守られなかったという状況の在日外国人の相談を受け、その解決のためのさまざまな活動を展開する個人やグループが「阪神・淡路大震災地元NGO連絡協議会」の分科会として誕生しました。

これまでの活動としては、震災時の被災外国人の治療費や弔慰金問題への活動、兵庫県地域国際化推進基本方針へのカウンターレポート提出、地域振興券の在日外国人非永住資格者排除に対する抗議活動、在留特別許可を求める家族を支える会の設立と運動などがあります。

活動内容

震災という緊急時だけでなく、言葉、制度、偏見などにより、日常の生活でも同じように相談ごとを抱えている弱い立場の在日外国人の声に耳をかたむけ、問題解決と、正当な権利を守るために必要なことに取り組んでいます。

私たちの団体だけで解決できる問題は少なく、弁護士や全国の支援団体、登録してくださっているボランティアの方々との協力・連携しながら日々活動を続けています。



↑NGO神戸外国人救援ネット設立10周年記念集会

①多言語による外国人のための生活相談ホットライン

在留資格・労働問題・社会保障など、在日外国人の権利にかかわる相談を受け、各専門家の協力を得ながら情報提供だけでなく、通訳同行、行政交渉、裁判支援などを行っています。

年間相談件数は約二〇〇〜三〇〇件で、主に在留資格の問題、刑事事件、家族関係、社会保障等があります。最近では、DVの問題や難民の問題が増えています。

相談日は、毎週月曜日：一七時〜二〇時、水曜日・金曜日：一四時〜二〇時です。対応言語は、スペイン語、ポルトガル語、英語、中国語です。

NGO神戸外国人救援ネット

〒650-0004 兵庫県神戸市中央区中山手通1-28-7 TEL & FAX 078-271-3270
E-mail : gqnet@poppy.ocn.ne.jp URL : http://www12.ocn.ne.jp/

② 移動生活相談会

神戸の相談窓口を知らず、近くにそういう窓口もない地域の在日外国人のために、一九九九年より県内各地で移動生活相談会を開始しました。二〇〇三年度以降は兵庫県ならびに(財)兵庫県国際交流協会との協同事業として実施しています。必要に応じて相談員、通訳、専門家などがその地域まで出かけていきます。相談会を開催することに相談を受ける体制も多方面からの協力を得て充実したものになっています。そして、相談会をきっかけに各地域に住む外国人に相談窓口の存在を知ってもらえるだけでなく、相談活動をする側としても県内の地域性を知り、地域間のネットワークを作り上げていく機会にもなっています。

③ 「移住労働者人権裁判基金」の事務局

震災当時、外国人登録をしていないなどの理由で震災救援から取り残されていた外国人の義捐金支援、高額治療費や弔慰金の肩代わり基金など、被災した外国人のために全国から寄せられた救援募金をいろいろな形で役立て、一定の成果を上げました。その後の相談活動の中で、日本社会に暮らす外国人が人権侵害を受けてもお金がないために法的手段をとることができないという現状にあることを知り、この救援募金の残りを原資としてNGO神戸外国人救援ネットが「移住労働者人権裁判基金」を創設しました。「移住労働者人権裁判基金」の目的は、「日本国内で人権を侵害された移住労働者として

の家族が権利回復等のための裁判を援助し、もって日本社会をよりよい共生社会に作りかえていくこと」です。人権を侵害された外国人その人の尊厳を回復するということが、日本の排外主義が外国人に対する無理解を助長するという社会的背景を訴え、多様な文化を持つ人々が共生する社会を築きたいという願いを目的としています。

④ 相談者の育成と人権の問題について考えるセミナーの開催

相談を受けるスタッフのために、弁護士、行政書士、消費者生活アドバイザーなど、住民の生活相談の専門家を招き、定期的に研修を行っています。

これまでに、相談を受ける側を対象とした「相談窓口担当者のための実践講習会」、外国人支援のための公開講座「外国人支援助のための公開講座」や当事者を対象とした「外国人のための生活情報セミナー」、「在日外国人のための労働セミナー」などを開催しました。

今年度の活動

震災当時から継続している生活相談ホットラインを中心に活動を継続していきます。また、今年度も移動生活相談会として県内六カ所での開催を予定しています。

また、現在「通訳同行活動の環境整備事業」を行っています。国際化に伴い自治体が多言語での情報提供、相談窓口サービスを行い始めた一方で、外国人当事者が問題解決のために通訳同行を希望している場合など

に通訳同行がまだ行政サービスとして確立されていません。この事業では通訳同行者の養成と派遣を行い、通訳同行活動の必要性や問題点を明らかにし、通訳同行サービスが行政政策の一環として制度化されるためのきっかけを作ることが目的としています。事業終了後は、事業の報告をもとに行政に通訳同行サービスの制度化を提案していく予定です。

お知らせ

NGO神戸外国人救援ネットは、発足して10年目を迎えました。これを記念してこれまでの活動の報告や統計などをまとめた10周年記念誌「阪神淡路大震災から10年～外国人と共にくらすまちをめざして～」を発行しました。

ご購入を希望されます方は、救援ネット事務局までご連絡を下さるか、郵便振替用紙通信欄に「10周年記念誌希望」と希望冊子を明記の上、振り込んでください。

- 1冊につき 300円
- 送料：(1冊)160円・(2冊)210円・(3冊)310円
- 郵便振替口座 01100-2-60701
- 加入名 NGO神戸外国人救援ネット
- TEL&FAX 078-271-3270



↑ NGO外国人救援ネット 設立10周年記念誌

クローズアップ

NGO・NPO

特定非営利活動法人

ピアザ 多言語広場CELULAS(セルラス) ～多言語を育て合いながら、地域や国際社会へ～

Close Up

NGO・NPO

多言語広場CELULAS(以下、セルラス)は、多言語習得活動を行いながら、さまざまな国や地域の人々と、文化や人種の壁を越えた国内及び国際交流をし、地域や国際社会に貢献できる人材の育成と、真の多文化共生社会の実現を目的として、二〇〇二年四月に内閣府の認証を受け設立されたNPO法人です。

少子化・グローバル化の波

今や国内における登録在任外国人は二〇〇万人を超え、街を歩けば英語・韓国語・中国語などの表示が目につき、行き交う人々の会話は必ずしも日本語のみとは限らない時代になってきました。現在、日本の労働人口は一九九八年から減り続けており、なおかつ世界第二位の少子化国です。将来の税収などを含めた国家経営が危ぶまれて、某大手新聞の社説には、今後毎年、年間約六〇万人の外国人就労者を受け入れる必要があると記されています。加えて、グローバル化が進む中で世界との距離は格段に狭まっています。わが国も、好むと好まざるにかかわらず、多文化・多言語共生社会に向かっているのです。

共生社会はあるものではなく、共に創り続けて行くものです。制度上の諸問題は国や関係機関及び他団体がそれぞれの取組みをされていますが、当法人では、より良い共生社会を築く上で重要な要素である「ことば」多言語の習得を通じたさまざまな事業

展開を図りながら、多文化共生社会の実現に貢献し得る人材育成を行っております。

多言語

国際社会やわが国でも久しく英語を世界共通語としてきましたが、さらなる多様な国際化においては、英語以外にもさまざまな外国語、すなわち多言語とすることばを話す人々に対応できる人材が求められています。

しかしながら、一カ国語だけでもまならないのに、多言語は程遠いというのが一般的な見方です。日本は単一言語国家だと言われていますが、世界中には複数の言語が一つの国内で飛び交っている地域が多くあります。そのような地域で生まれ育った人々はいくつものことばを習得しているのです。

いくつものことばを同時に習得するには、文法や文字からではなく、それぞれのことばに特有のメロディーやリズム、音声的特徴から入ることで、当法人では母語を習得していくプロセスに学び、多言語習得活動を次の三原則を基に行っています。

セルラスの多言語習得活動

① 音声から

セルラスの会員は日常的にオリジナル物語CD(英・韓・西等)を聞き、毎週各地域にあるピアザ(広場)という場集まります。ピアザではコーディネーターを中心にさまざま

(特活)多言語広場CELULAS(セルラス)

〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-23-1 ニューステートメナー1038 TEL 03-5338-8202 FAX 03-5333-8203

URL : http://www.celulas.or.jp

まなことば(外国語)のシャドウイングや音声ゲーム・ロールプレイ・シェアリングなどを通して、仲間と一緒に音声を捉え声に出すことから始めます。

②人と一緒に

ことばの習得に多大な効果をもたらすものは、どのようなことばも受け止め合える温かい関係性の土壌があることです。セルラスでは従来の一方的な「教えるー教わる」という関係の場ではなく、会員同士がネイティブスピーカーの音声(セルラスオリジナルCD)を素材として、ことばを一緒に見つけ、伝え、教え合いながら育て合っています。

③必然性

実際にそのことばを話す人たちに出会わないと生きたことばにはなりません。毎週のピアザでは、留学生や在住外国人の参加も促し、互いのことばを学び合う交流の場にもなっています。同時にセルラスではさまざまな国際交流や留学生、在住外国人支援等々のプロジェクトを行っています。

ことばと社会貢献

人類にとってことばが誕生した背景を考えると、ことばは本来人類の共生に欠かすことのできないものであったはずですが、セルラスでは単に何力国語も流暢に話せることだけを目的とはしていません。むしろ重要なのは、多言語習得活動を通してさまざまな国や地域の人々と出会いながら「他者から学び自分の世界を広げる」ことです。その

上で互いの国籍・言語・文化の違いを尊重し学び合い、共感する心、互いを思いやる心を育てていきたいと考えています。

社会貢献活動の実践

日常のピアザによる多言語習得活動と同時に、セルラスでは会員が主体的にかかわってさまざまなプログラムを行っています。

青少年育成

未来を担う青少年の育成には特に力を入れていきます。一七年度は、独立行政法人国際交流基金の助成を受けて、一般の小学五・六年生を韓国馬山市の小学校に派遣し、一週間のホームステイを体験するプログラム「韓国の友だちアンニョンハセヨ」を行います。



↑青少年多文化体験サマーキャンプ(平成16年8月24日~27日)3泊4日 岐阜県各務原市立少年自然の家

その他、夏休みを中心とした青少年海外ホームステイ交流(アメリカ・カナダ・韓国等、二週間~一カ月)や子どもゆめ基金助成事業として毎年行っている青少年多文化体験サマーキャンプ(三泊四日)、高校生の一年間交換留学などがあります。

留学生・在住外国人交流支援

日本に滞在している留学生支援として行っているプログラムの一つに、ワンデイト

リップボランティアや日本人宅でのホームステイ・ホームビジット受入れを行っています。また留学生や在住外国人と協力し、その国の文化やことばを楽しく学ぶ国際理解教室を開催しています。小中学校の依頼を受けて行ったり、また児童館などで、一般の子どもたちとその保護者を対象に行ったりしています。



↑親子で楽しむ国際理解教室(6月5日)東京都児童館(後援:東京都・渋谷区)

CELULASの目指すもの

人類は約百万年とも、何十万年とも言われる年月をかけて、宮々ことばを育んできました。ことばはまさしく人間存在そのものです。

セルラスの多言語習得を含めた諸々の活動を通して、経済格差や文化の差異に囚われず人間を平等に見る目、どんなことばにも耳を傾け相手のことばで話そうとする柔軟で開かれた心、さまざまな国や地域の人々と言語の壁を乗り越えて交流を図れるコミュニケーション能力などが育まれ、国際社会貢献と人類の真の共生に寄与でき得る人材の育成を目指しています。